

III 前期基本計画

1. 前期基本計画の策定にあたって
2. しおがま未来創生プロジェクト
3. まちづくりの目標と方向性に基づく施策

01

前期基本計画の策定にあたって

(1) 計画期間

前期基本計画の計画期間は、令和4年度(2022年度)を初年度として、令和8年度(2026年度)を目標年度とします。

(2) 計画の推進について

今後の本市のまちづくりにあたっては、国際社会の共通目標である「持続可能な開発目標(SDGs)」や、人口減少の歯止めと活力ある日本社会を目指すための「地方創生」に向けた取組、市民まちづくりワークショップから生まれた「塩竈らしい100の暮らし」など、国際的な視点から市民の視点までを幅広く取り入れることが重要となっています。

SDGsについては、国においても、地方でのSDGsの推進が地方創生にも資するとしており、国の第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(2020改訂版)には、横断的目標の中にSDGsによる地方創生の推進が組み込まれています。

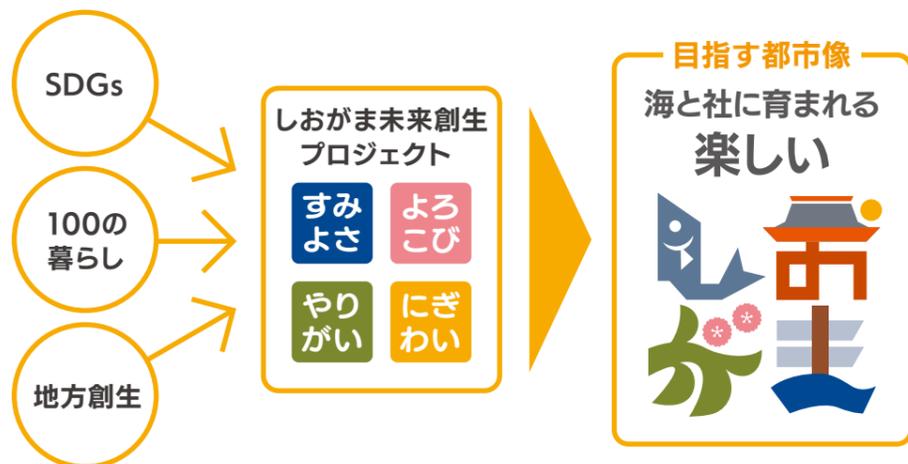
このことから、本市においても、前期基本計画の各施策分野や成果指標にSDGsの要素を取り入れることで、一体的に推進していきます。

また、人口減少と少子高齢化が近隣市町よりも急速に進む中、持続可能なまちであるためには、まずは、市民、その他多くの人に「いつまでも住みたい」、「住んでみたい」、「訪れてみたい」という想いを持ってもらう必要があります。

これらの想いを早期に生み出していくため、地方創生の取組を効果的に推進し、人口減少の克服とまちの魅力度の向上を図ります。

さらに、市民が描いた「塩竈らしい100の暮らし」は、『楽しみながらこれからも塩竈で暮らしていきたい』という想いにあふれており、今後のまちづくりの重要な指針となるものです。

このような考え方にに基づき、前期基本計画においては、基本構想で定める8つのまちづくりの目標に基づく具体的施策と、それらについて横断的な視点で機動的に取り組む「しおがま未来創生プロジェクト」を定め、『海と社に育まれる楽しい塩竈』の実現を目指します。



(3) しおがま未来創生プロジェクトについて

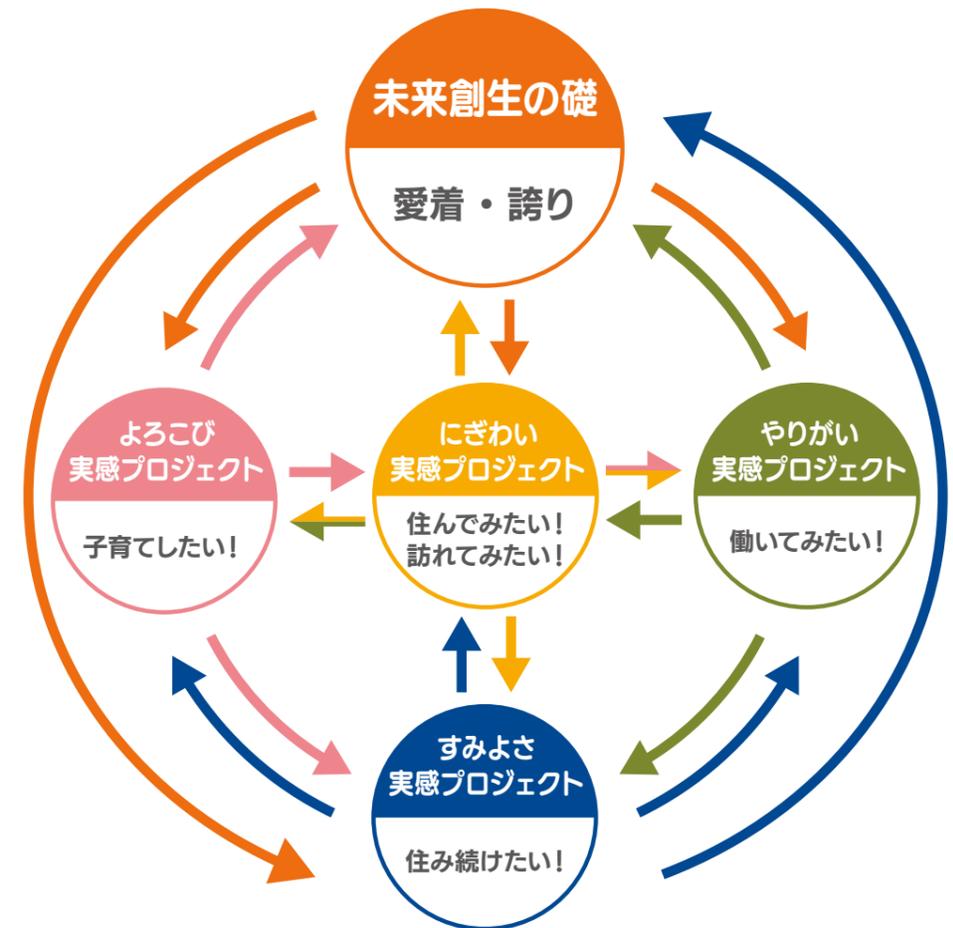
「しおがま未来創生プロジェクト」は、基本構想に掲げる目指す都市像『海と社に育まれる楽しい塩竈』の実現に向けて、前期基本計画の各施策を進めるにあたっての原動力となるものです。

各分野の特に重点的に推進する施策を掲げ、機動的・横断的に取り組むことにより、施策連携に伴う相乗効果を発現するとともに、同時並行的に好循環を生み出そうとするものです。

また、本プロジェクトは、市民が描いた「塩竈らしい100の暮らし」からのまちのイメージと国の第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(2020改訂版)の基本目標を組み合わせ、塩竈での楽しい暮らしに直結する『すみよさ』、『よろこび』、『やりがい』、『にぎわい』を市民に実感いただき、未来創生の礎である本市への『愛着と誇り』を醸成することを目指すものです。

さらに、本市の「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」として位置づけ、人口減少の克服と持続可能なまちづくりに向けた取組を進めるものです。

プロジェクトの推進による好循環のイメージ



(4) 推進体制

多様な主体が同じ目的に向かって力を合わせ、新たなまちづくりを共に進める「協働・共創」の視点を重視し、まちづくりの主役であり担い手でもある市民や市民活動団体、地域経済を支える事業者のほか、本市に関わりのある方々などと、行政が一体となって本計画を推進します。

そして、本市が持つ個性や魅力など、一つ一つの小さな結晶をみんなでつなぎ合わせ、美しい光を放ちつづける持続可能なまちを目指します。



(5) 進行管理

本計画を着実に推進するために、計画(Plan)、実施(Do)、評価(Check)、改善(Action)といったPDCAサイクルによる進行管理を行います。

しおがま未来創生プロジェクトにおける重要目標達成指標^{※20}や数値目標とともに、各分野に掲げる主要な施策について成果指標^{※21}を設定します。

また、成果指標のうちSDGsの推進に資する指標については、「SDGsローカル指標」に位置づけることで、本計画とSDGsを一体的に推進していきます。

さらに、計画の実行や達成状況について、有識者などによる評価・検証の機会を定期的に設け、施策の改善や後期基本計画の策定につなげていきます。



※20 【重要目標達成指標】最終目標が達成されているかを計測するための指標のことで、KGI(Key Goal Indicator)とも呼ばれる。
 ※21 【成果指標】政策目標の実現に向けて、その達成度を確認するため、具体的な目標となる項目を定め、その目指すべき水準について数値などを用いて定量的に分かりやすく示したもので、「見える化」することにより、進捗状況の点検・評価のほか、事業や計画の見直しに活用する。

02

しおがま未来創生プロジェクト

(1) 4つの実感プロジェクトについて

都市像の実現を目指す原動力となる「しおがま未来創生プロジェクト」の重要目標達成指標(KGI)として、前期計画期間に「本市への愛着・誇りを70%に高める」ことを掲げ、「すみよさ実感」「よろこび実感」「やりがい実感」「にぎわい実感」の4つのプロジェクトを推進します。

プロジェクトごとに数値目標を設定し、その実現に向けて重点的に取り組む施策については、「3まちづくりの目標と方向性に基づく施策」において、各プロジェクトのマークを付して示しています。

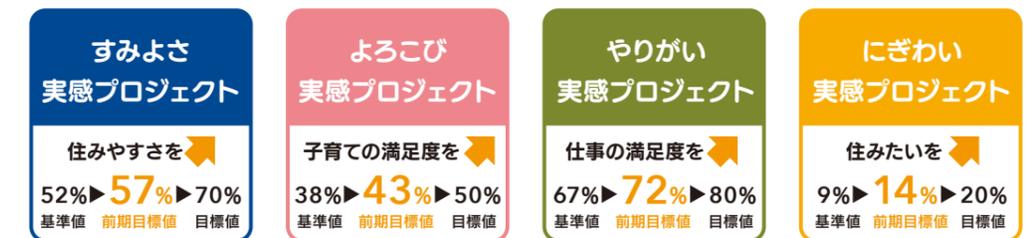
プロジェクト 体系図

計画期間：令和4年度～令和8年度

塩竈への愛着・誇りの醸成(未来創生の礎)

重要目標達成指標(KGI)		
基準値	前期計画目標値	目標値
65% (令和元年度)	70% (令和8年度)	80% (令和13年度)

(まちづくりに関する市民アンケート)



「100の暮らし」からのまちのイメージ

1. 住んでいて心地良く、誇りを持つまち
2. 子どもたちが生き生きしているまち
3. 地域特性を生かしたやりがいのあるまち
4. さまざまな人たちがつながり、賑わいがあるまち

国の第2期総合戦略基本目標

1. 稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする
2. 地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる
3. 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
4. ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

すみよさ

①すみよさ実感プロジェクト

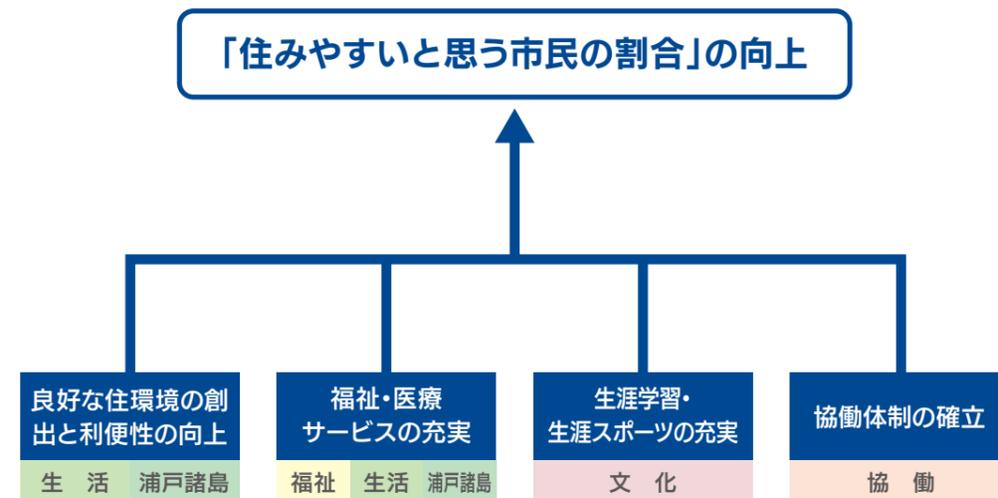
コンパクトシティの利便性や地域資源を最大限に生かした取組、医療や福祉サービスの充実などにより、安心して快適に暮らすことができる環境を整え、子どもからお年寄りまでの全ての市民が住み良さを実感できるまちを目指します。



数値目標

指標名	基準値	目標値
住みやすいと思う市民の割合	52% (令和元年度)	57% (令和8年度)

※まちづくりに関する市民アンケート



※数値目標の達成に向けて、好循環を生み出す施策を体系的に示しています。また、横断的な取組を重視する観点から、基本構想に掲げるまちづくりの目標の分野も合わせて示しています。

よろこび

②よろこび実感プロジェクト

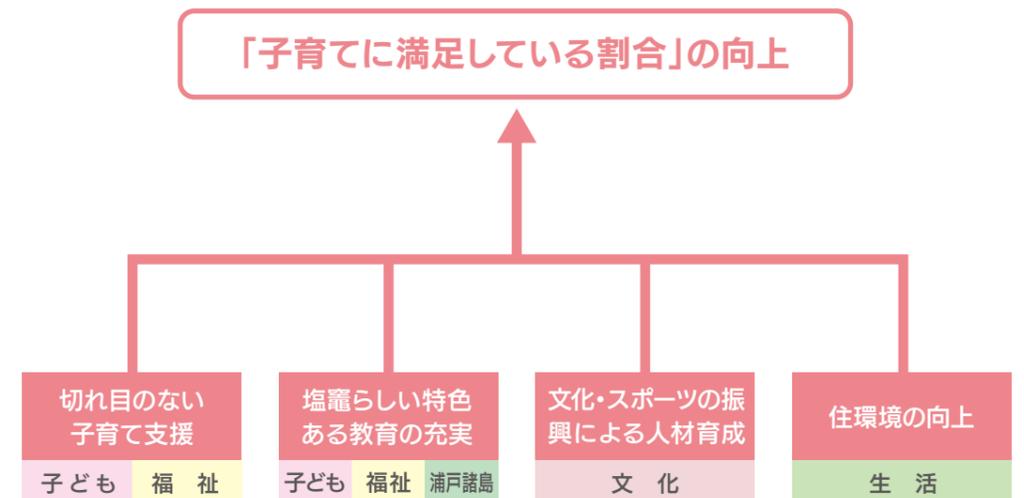
切れ目のない子育て支援の充実や特色ある質の高い学校教育の推進などにより、子どもたちの健やかな成長を支え、子育て世帯が子どもを産み育てる喜びを実感できるまちを目指します。



数値目標

指標名	基準値	目標値
子育てに満足している割合	38% (令和元年度)	43% (令和8年度)

※まちづくりに関する市民アンケート



やりがい

③やりがい実感プロジェクト

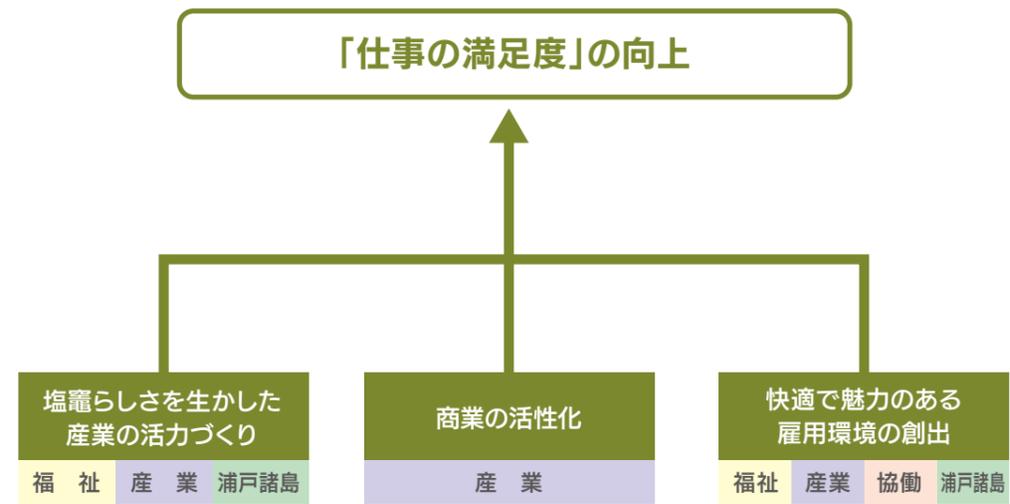
水産品や水産加工品をはじめ、多彩な「食」がつどう「みやぎの台所・しおがま」の特性を生かし、基幹産業である水産業や水産加工業のさらなる振興や魅力ある企業の誘致などにより、働く方々がやりがいを実感できるまちを目指します。



数値目標

指標名	基準値	目標値
仕事の満足度	67% (令和元年度)	72% (令和8年度)

※まちづくりに関する市民アンケート(業種・職種、雇用形態、やりがい、賃金面の満足度の平均値)



にぎわい

④にぎわい実感プロジェクト

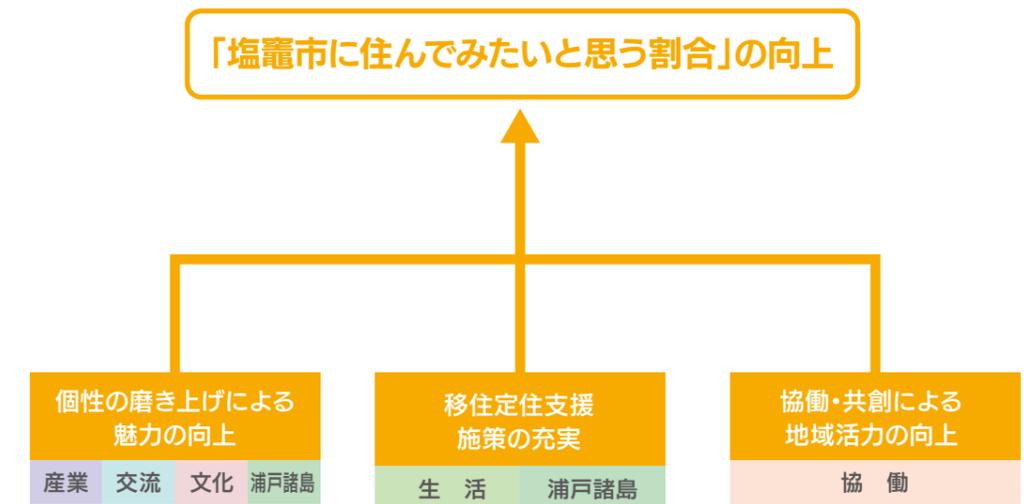
魅力ある個性を有機的につなぎ合わせた移住定住施策や交流人口拡大に向けた取組の推進により、塩竈への新しい人の流れを築くことで、市民をはじめ多くの方々が賑わいを実感できるまちを目指します。



数値目標

指標名	基準値	目標値
塩竈市に住んでみたいと思う割合	9% (令和2年度)	14% (令和8年度)

※市外居住者Webアンケート



03

まちづくりの目標と方向性に基づく施策

第1章 子どもたちの笑い声があふれるまち(子ども)

まちづくりの方向性

健やかに育つ・育てる環境づくり

第1節 「妊娠」から「子育て」までの切れ目ない
支援体制の構築

第2節 未来を担う子どもを育むための学習環境の充実

第3節 地域全体で子育てや教育を支える体制の充実

※しおがま未来創生プロジェクトとして、より重点的に取り組む施策や指標は各プロジェクトのマークで示しています。



施策体系

第1節 「妊娠」から「子育て」までの切れ目ない支援体制の構築

1 子どもと子育て世代への支援の充実

- ① 子育て世代包括支援センター「にこサポ」などを中心として、妊娠期から子育て期にかかる全ての子どもの健康、発達、育児などの相談体制の充実を図り、ワンストップで切れ目のない支援を行います。 よ
ろ
こ
び
- ② 妊産婦健康診査や新生児訪問、乳幼児健康診査等を実施するとともに、産後も母親が心身ともに健やかな生活を送れるよう、さまざまな機会を活用した育児相談を実施するなど、産後ケアの充実に努めます。 よ
ろ
こ
び
- ③ 中学生に向けて、子育ての大切さを知る体験学習に取り組み、命の尊さなどについて学ぶ機会を充実させます。 よ
ろ
こ
び
- ④ 子ども医療費や妊産婦健康診査、不妊治療にかかる費用等の助成を行い、子育てに要する経済的負担の軽減を図ります。 よ
ろ
こ
び

2 働きながら安心して子育てができる環境づくり

- ① 延長保育や乳児・低年齢児保育、一時預かり、病児保育、病後児保育などの充実を図り、多様な就労形態に対応した保育サービスを提供します。 よ
ろ
こ
び
- ② 教育的な視点を取り入れた学習や、地域交流・世代間交流など、放課後児童クラブの活動内容の充実による質の向上を図ります。 よ
ろ
こ
び
- ③ 子育て世代の労働時間の短縮や育児休業制度の普及に向けた意識啓発に努め、企業の子育て支援活動を促進するとともに、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)^{※22}に向けた取組を推進します。 よ
ろ
こ
び

3 全ての子どもたちの健やかな成長に向けた支援の充実

- ① 誰一人取り残さない地域づくりを目指し、それぞれの家庭の状況に応じた相談や、生活の安定・自立に向けた支援を行います。 よ
ろ
こ
び
- ② 関係機関との連携を図り、子どもたちの個性に応じた切れ目ない支援を行うとともに、児童虐待やドメスティックバイオレンス(DV)^{※23}など、家庭における問題の早期発見・早期対応に努めます。
- ③ 地域全体で子どもの権利^{※24}についての理解を深め、「子どもにとって大切なことは何か」を常に念頭においた取組が進められるよう、普及啓発に努めます。



子育て支援センター「こころん」

※22 【ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)】働くすべての人々が、仕事と育児や介護、趣味や学習、休養、地域活動といった仕事以外の生活との調和をとり、その両方を充実させる働き方・生き方のこと。

※23 【ドメスティックバイオレンス(DV)】配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振られる暴力のこと。

※24 【子どもの権利】1990年「子どもの権利条約」が国際条約として発効され、この条約において、「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」の大きく4つが定められている。

第2節 未来を担う子どもを育むための学習環境の充実

1 個性を生かす学びや協同的な学びの充実

- ① 「主体的・対話的で深い学び」と「ユニバーサルデザイン^{※25}」の視点を取り入れ、一人も取り残すことなく「できる・わかる・思いやる」喜びが味わえる「協同的な学び」を充実させます。 よ
ろ
こ
び
- ② 小学校と幼稚園・保育所・認定こども園などとの積極的な連携により、円滑に小学校生活に適応できる環境を整えます。 よ
ろ
こ
び
- ③ 小学校と中学校との連携を進め、「児童生徒間」や「教職員間」のさまざまな交流活動を実施します。 よ
ろ
こ
び
- ④ 学校、家庭、地域などの関係機関が連携し、いじめの未然防止と早期発見・迅速な対応に努めます。
- ⑤ 教育支援センター「コラソン」が中心となって、不登校の児童生徒などの居場所づくりや相談体制を充実させます。

2 豊かな歴史文化とのふれあいと世界に目を向けた学びの推進

- ① 豊かな歴史や文化とふれあう機会の充実を図り、子どもたちの郷土愛を育みます。 よ
ろ
こ
び
- ② 多彩な食文化を生かした体験学習や地域の恵みを取り入れた給食の提供などにより、食育を推進します。 よ
ろ
こ
び
- ③ 外国語指導助手(ALT)の活用による外国語教育や国際理解教育を充実させるとともに、海外との積極的な交流を推進します。

3 安全・安心で快適な教育環境づくり

- ① ICT(情報通信技術)を効果的に活用できる教育環境整備に努め、情報を活用する力を育み、子どもたちの創造性や可能性を広げます。 よ
ろ
こ
び
- ② 安全・安心で快適な学校生活を送れるよう、施設の良好な環境整備に努めます。



「協同的な学び」の様子

※25 【ユニバーサルデザイン】年齢、性別、身体的状況、国籍、言語、知識、経験などの違いに関わらず、できるだけ多くの人が使いこなせるものや環境のデザインを目指す概念のこと。

第3節 地域全体で子育てや教育を支える体制の充実

1 学校・家庭・地域が連携した子どもの育ちと子育て支援の充実

- ①子どもたちの健やかな成長に向けて、地域などが主体となった放課後の居場所づくりを支援するとともに、学校・家庭・地域と連携し、取組の充実に努めます。
- ②子どもの居場所や身近な遊び場の情報を広く提供し、利用促進を図ります。
- ③PTA活動や子ども会活動をはじめとした地域コミュニティ活動など、多様な担い手が子どもたちを育む活動を支援します。

よ
こ
こ
び

2 子どもたちの安全確保体制の充実

- ①スクールガード・リーダーの配置など、子どもたちの安全確保に向けた取組を地域ぐるみで推進します。
- ②日常の中でできる「ながら見守り」や「ついで見守り」を推進し、地域全体で子どもたちを見守る体制を構築します。

3 地域と連携した家庭教育応援体制の充実

- ①家庭教育の重要性への理解を深めるため、普及啓発に努めるとともに、親自身が子育てや教育について学ぶ機会を提供します。
- ②家庭教育支援に関わる人材の育成に努め、地域全体で子育てを応援する体制をつくります。



こどもほっとスペースづくり支援事業の取組

成果指標

NO	指標名		基準値	目標値	SDGs ローカル指標	備考
1	「子育て支援の充実」の満足度	よ こ こ び	21.5% (令和元年度)	25% (令和8年度)		市民アンケート (市の取組評価)
2	乳児全戸訪問実施率	よ こ こ び	100% (令和2年度)	100% (令和8年度)	3	
3	待機児童数(年度当初)	よ こ こ び	11人 (令和2年度)	0人 (令和8年度)	5	
4	一時預かり保育利用者数	よ こ こ び	935人 (平成30年度)	950人 (令和8年度)		
5	放課後児童クラブ待機児童数(年間最大人数)	よ こ こ び	5人 (令和2年度)	0人 (令和8年度)		
6	児童相談最終結件数		108件 (令和2年度)	108件 (令和8年度)	16	
7	「授業の内容はよく分かる」と回答した児童生徒の割合	よ こ こ び	①小学校 国語:85.7%(90.8%) 算数:84.7%(86.6%) ②中学校 国語:92.0%(90.3%) 数学:83.3%(83.7%) (令和2年度)	県平均を上回る 数値 (令和8年度)	4	宮城県児童生徒 学習意識等調査 ※()内は仙台市 を除いた県平均
8	「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童生徒の割合		①小学校 95.5%(95.8%) ②中学校 96.5%(96.3%) (令和2年度)	県平均を上回る 数値 (令和8年度)		宮城県児童生徒 学習意識等調査 ※()内は仙台市 を除いた県平均
9	「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒の割合	よ こ こ び	①小学校 66.5%(67.5%) ②中学校 62.8%(56.9%) (令和2年度)	県平均を上回る 数値 (令和8年度)		宮城県児童生徒 学習意識等調査 ※()内は仙台市 を除いた県平均
10	こどもほっとスペースづくり支援事業実施主体数	よ こ こ び	3主体 (令和元年度)	6主体 (令和8年度)		
11	地域などが主体となった「放課後の居場所づくり」支援者数	よ こ こ び	107人 (令和3年度)	450人 (令和8年度)		
12	「家庭教育」に関する学習を行い、理解を深めた人の割合		4.2% (令和3年度)	基準値を上回る 数値 (令和8年度)		生涯学習アンケート

みんなで描いた「100の暮らし」 子どもの分野

子どもの分野では、幅広い年齢の子どもが親や地域の人の温かみに触れながら、豊かに成長していく暮らしが描かれました。



放課後、子どもたちの 笑い声が響く暮らし

放課後になると近所の公園や空き地に子どもたちが集まり、子どもだけの世界をつくって遊んでいる。近くを通る住民やお巡りさんが子どもたちの様子を見守る。



町内会の盆踊りで 子どもたちが 跳ね躍る暮らし

各町内会では住民の手による夏祭りが毎年開催される。当日はお神輿や盆踊りに子どもたちが元気に参加するので、運営にあたる親世代や祖父母世代にも活気が生まれる。



地域みんなで たるみこしを作り、 町内へ繰り出す暮らし

ある地区では毎年、地域住民が集まってたるみこしを作る。作り方はシニア世代から若者、子どもたちへ受け継がれていく。ほかの地区でも、それぞれに、多世代が交流できるさまざまな慣習が根付いている。



運動部の学生が坂道で トレーニングする暮らし

夕方になると、急な坂道を利用してトレーニングをする学生たちの仲間を励ます声が響く。毎年このまちからは、脚力を武器に全国で活躍する選手が現れる。



校庭で凧揚げをする 暮らし

正月、学校の校庭には凧揚げの子どもたちの姿が見られる。腕に覚えのある近所の大人たちが、凧の作り方や揚げ方のコツを教えながら子どもたちの遊びを見守っている。



読み聞かせで 絵本に親しむ暮らし

小さい子どもが図書館やエスプに行くと、スタッフや保護者、ボランティアの中高生などが絵本の読み聞かせをしてくれる。塩竈の民話をもとにした紙芝居を鑑賞できる日もある。



子どもたちがまちの 未来を語り合う暮らし

地域や学校などで、まちの現状や未来について子どもたちが意見を言う機会がある。子どもたちは意見を言うためにまちのことを学び、大人は子どもたちの考えを知ることができる。



体験を通じて 塩竈の良さを 知る暮らし

子どもたちが塩竈の文化、産業、職業などを体験して学べる場がある。さまざまな職業・立場の人が場の運営に関わり、職業・世代を超えた交流が生まれている。



地元で働きながら 子育てをする暮らし

地域の保育施設には十分な定員数が確保されている。市内や近隣にはさまざまな職種があり、親たちは働きながら子育てしやすい。通勤に長い時間を奪われないので子どもとゆっくり過ごす時間も確保できる。



勉強を口実に子どもたちが 集まる暮らし

放課後や休日、集会所や児童館に子どもたちが集まって教科書を広げている。教師経験のある住民や近所の大学生がボランティアで勉強を教えているが、いつも友人とひそひそ話をしている子もいる。



図書館の学習スペースで 集中して勉強する暮らし

図書館の自習コーナーやコミュニティセンターの学習室など、中高生が勉強に集中できる場所がある。努力して目標を達成した先輩の姿を見た学生らは「勉強は自分でするもの」ということを学ぶ。



子どもたちの通学を 地域で見守る暮らし

毎朝夕、通学中の子どもたちと地域住民との挨拶の声が聞こえる。通学路を走る車は常に子どもたちに注意して徐行している。夕方、家々の門灯や玄関灯は早めに点灯される。



大人と中高生が 同じテーマで 意見を交わし合う暮らし

カフェやコミュニティスペースでトークイベントが開催される。毎回テーマを決め、大人も中高生もそれぞれの視点で考えを述べ合う。会場は和やかな雰囲気、イベント終了後は雑談に花が咲く。



子どもたちが 大人の知らない 世界をもつ暮らし

近所の子どもたちが、子どもだけの秘密の国を作って遊んでいる。小さい子をみんなで守ることは暗黙の掟。大人たちは子どもたちの世界を邪魔しないようにさりげなく見守っている。

※「みんなで描いた100の暮らし」は、「塩竈が塩竈らしくここでしかなし得ないかたちで続いていくこと」をテーマに、これからの塩竈での暮らしを考える市民まちづくりワークショップを全6回開催し、参加者のアイデアを「100の暮らし」にまとめたものです。



第2章 みんなが生き生きしているまち(福祉)

まちづくりの方向性

健康で安心して暮らせる地域づくり

第1節 みんなが生きがいを持ち安心して暮らせる
支援体制の充実

第2節 健康増進と健康寿命の延伸による元気の創出

第3節 安心できる地域医療体制の充実

※しおがま未来創生プロジェクトとして、より重点的に取り組む施策や指標は各プロジェクトのマークで示しています。



施策体系

第1節 みんなが生きがいを持ち安心して暮らせる支援体制の充実

1 高齢になってもいつまでも生き生きと暮らせる地域づくり

- ① 高齢者が知識や経験を生かし、担い手として地域社会に参画できる環境をつくり、生きがいの創出に努めます。 すみよさ
- ② 地域や事業所、行政が連携し、多様な主体により高齢者の日常生活の支援や介護予防サービスの提供に努めます。
- ③ ひとり暮らし・二人暮らし高齢者世帯への支援の充実を図るとともに、在宅で介護をする家族へのきめ細かい支援を継続します。
- ④ 認知症に対する理解を深めるとともに、認知症の高齢者やその家族が安心な暮らしを送れるよう支援します。

2 障がいのある人も生き生きと暮らせる共生社会づくり

- ① 福祉の心を育む教育やボランティアの育成支援などを通じた「心のバリアフリー」と、効果的な福祉情報の提供や情報格差の是正など「情報のバリアフリー」を推進します。 すみよさ
- ② 道路や公共施設の環境整備に努め、障がいのある人や配慮が必要な人も住みやすいまちづくりを推進します。
- ③ 障がいのある人の雇用について、企業へ積極的に働きかけるとともに、福祉施設と連携して就労支援の充実を図ります。 やりがい
- ④ 障がい福祉サービスについて、相談支援体制を強化するとともに、地域の実情に合わせた質と量を確保し、安定的なサービス提供に努めます。

3 生活困窮者の自立と社会参加に向けた支援の充実

- ① 生活困窮者の自立に向けて、一人一人の状況に応じたきめ細かな相談体制の充実に努めるとともに、関係機関と連携しながら就労支援や生活支援を強化します。 すみよさ
- ② 貧困の連鎖の解消に向けて、経済的に困窮している家庭の子どもたちへ、学習機会を提供します。

4 地域福祉の推進

- ① 民生委員・児童委員など地域活動の担い手との連携を深め、地域課題の早期発見と早期対応に取り組みます。
- ② 福祉関係団体と連携し、地域で互いに助け合う体制の構築に努め、地域福祉の向上を図ります。



ダンベルサークル交流会

第2節 健康増進と健康寿命の延伸による元気の創出

1 からだの健康づくり

- ① 健康についての知識の普及啓発に努めるとともに、楽しみながら継続して健康づくりに取り組める環境をつくります。 すみよさ
- ② 疾病の早期発見に向けて、生活習慣病や健(検)診についての情報発信を強化するとともに、「受診しやすい健(検)診」の環境整備に努めます。
- ③ 健康推進員と連携し、地域での健康活動を広げることで、まちぐるみでの健康づくりを推進します。

2 こころの健康づくり

- ① ストレスと上手に向き合う方法をはじめとした、心の健康に関する知識の普及啓発に努めます。
- ② 心の健康に関する講座や研修を通じて、見守りや支援を行う人材の育成に努めるとともに、相談支援体制を充実させます。

3 食から始まる健康づくり

- ① 食と健康への関心を高める取組を充実させ、子どもの時から調和のとれた食生活^{※26}の定着を促進します。 よろこび
- ② 食事の楽しさを実感しながら、食を通じた学びや心身の健康維持につながる「共食」の機会を増やす取組を推進します。
- ③ 食に関わる人たちのネットワークを構築し、魚食をはじめとした食文化や塩蔵の食材を生かした体験学習活動などを協働して展開することにより、食育を推進します。 やりがい



おさかなクッキングの様子

※26 【調和のとれた食生活】健康的で栄養バランスのとれた食生活とあわせて、生活リズムも望ましいスタイルにすること。

第3節 安心できる地域医療体制の充実

1 保健・医療・介護分野のネットワーク化の推進

①切れ目のない保健・医療・福祉サービスの提供に向けて、地域で適切なケアマネジメント※27が行われるよう環境整備を進めるとともに、多様な職種・機関との連携協働による地域包括支援ネットワークの構築を図ります。

2 休日・夜間の安定的な医療提供

①医師会や歯科医師会、薬剤師会、近隣市町等との連携強化を図り、休日の急患診療や救急歯科診療の安定的な提供に努めます。

3 市立病院を中心とした地域医療体制の充実

- ①住み慣れた地域で安心して過ごせるよう、医療と介護・保健分野の連携強化を図り、市立病院を中心とした地域医療体制の充実を図ります。
- ②市立病院については、消化器系を中心とした急性期医療、在宅復帰を支援する回復期医療、将来大幅な増加が見込まれる在宅医療を柱に、人間ドックや検診業務など予防への取組も強化しながら、地域に寄り添う医療の提供に努めます。
- ③市立病院における安全で良質な医療の提供の継続に向けて、施設整備の検討を進めるとともに、不足が見込まれる医療スタッフの確保に努めます。

すみよさ



塩竈市立病院

成果指標

NO	指標名		基準値	目標値	SDGs ローカル指標	備考
1	「社会的な活動※28」を行っている高齢者の割合	すみよさ	43% (令和元年度)	63% (令和8年度)	3	
2	介護予防に資する「通いの場※29」へ参加する高齢者の割合		10.9% (令和元年度)	前年度を上回る数値 (令和8年度)	3	
3	認知症サポーター養成講座受講者数		5,924人 (令和2年度) ※累計	7,268人 (令和8年度) ※累計	3	
4	「障がいのある人もない人も共に安心して暮らせる福祉のまちづくり条例」を知っていると回答した人の割合	すみよさ	12.5% (令和2年度)	50% (令和8年度)		障がい者福祉計画アンケート
5	障がい福祉施設利用者の一般就労への移行者数	やりがい	10人 (令和元年度)	17人 (令和8年度)		
6	がん検診・精密検査受診率		①がん検診 ②精密検査 肺がん 46.6% 89.3% 胃がん 28.0% 86.8% 大腸がん※ 47.0% 66.1% 子宮頸がん 38.6% 89.5% 乳がん※ 53.3% 99.4% 前立腺がん 14.5% 73.9% (令和元年度) (平成30年度) ※大腸がん、乳がんは、がん検診令和2年度、精密検査令和元年度の受診率	①がん検診 基準値を上回る数値 (令和8年度) ②精密検査 100% (令和7年度)	3	
7	自殺死亡率(人/10万人)		20.1 (平成24年～28年の5カ年平均)	14.1 (令和3年～7年の5カ年平均)	3	
8	「嫌いなものがあつたときも残さず食べる」と回答した子どもの割合	よろこび	①小学生:41.4% ②中学生:53.7% (平成30年度)	①小学生:46%以上 ②中学生:58%以上 (令和8年度)		食育推進計画アンケート
9	「地域の産物を活かした料理を食事に取り入れている」と回答した人の割合		34.4% (平成30年度)	51%以上 (令和8年度)		食育推進計画アンケート
10	民生委員充足率		93.3% (令和2年度)	100% (令和8年度)		

※28 【社会的な活動】働いていることやボランティア活動、地域社会活動、サークル活動などのこと。
 ※29 【通いの場】集会所などを会場に、高齢者をはじめ住民が主体となり、集団で行う体操などの介護予防に資する活動のこと。

※27 【ケアマネジメント】サービスを必要とする利用者と、実際の福祉サービスや医療サービスなどの提供をつなぎ合わせること。

福祉の分野では、お年寄りが子どもや地域の人たちとふれあう暮らしや障がいのある人も安心できる暮らし、みんなが健康で元気でいられる暮らしが描かれました。



**祖父母が孫に
手を引かれて
坂道を登る暮らし**

小さな子が祖父母の手を引いて歩く。足腰自慢の祖父母も「孫にはもう負けるね」と笑う。坂道の途中の茶店に孫と寄るのも楽しみ。道を走る車は歩行者優先を徹底している。



**家族で毎日
「しおがま100歳体操」
を続ける暮らし**

市民有志が専門家の助言を受け、子どもも高齢者も一緒に取り組める楽しい体操を考案した。合理的に健康増進を図れるだけでなく、家族で取り組むことで互いの健康観察にも役立つ。



**「買出しツアー」で
商店街に買い物に
行く暮らし**

週に2~3回、近隣住民どうしが1台の車に乗って商店街に買い物に行く。日常の買い物や用事を済ませられるので、運転免許を返納する高齢者が多くなった。



**経験を生かして
「ちょこボラ」で
活躍する暮らし**

だれでもできることから個々の経験や特技を生かせることまで、ボランティアに参加できる場面が豊富にある。地域の役に立っていると思えると暮らしに張り合いが出る。



**健康についての勉強会で
情報交換する暮らし**

近所のコミュニティスペースで定期的に健康や病気についての勉強会が開かれている。専門家による助言や参加者どうしの情報交換を通して、住民の健康意識は向上した。



**まちを歩く高齢者を
地域で見守る暮らし**

地域を歩く高齢者を近所の人が見守っている。危険がないように声をかけ、必要に応じて家族や施設に連絡する。近くの交番の巡査も地域の人様子を把握し、頻繁に見回っている。



**働く人の健康を
大事にする暮らし**

多くの事業者の間に、従業員が長く元気に働けることが自社の利益につながるという意識が浸透している。そのため従業員の体にかかる負荷を軽減する職場環境が整えられている。



**シニア世代が短時間の
アルバイトで小遣いを
稼ぐ暮らし**

体に負担の少ない短時間の業務をシニア世代に割り振るしくみがあり、多くの人々が就業して社会参加しながら小遣いを稼ぐ。生活にハリが出て元気な高齢者が多くなり、勤労世代の負担が軽くなる。



**障がいのある人が
ゆっくり安全に道を
歩く暮らし**

市内は、段差のない歩道や点字ブロック、音声案内も整備されており、高齢者や障がいのある人も歩きやすい。また、市民には困っている人をサポートする意識が根づいている。



**空き店舗で健康麻雀を
しながら笑い合う暮らし**

「シャッター通りからウェルネスの聖地へ」を合言葉に空き店舗の活用が進められた。健康麻雀、囲碁、将棋などを楽しめるスペースもでき、商店街がにぎやかになるとともに新たな雇用も生まれた。



**近くにかかりつけの
町医者がある暮らし**

子どもが急に熱を出したので近くの医院に駆け込んだ。生まれた時から診てもらっているので安心して受診できた。祖父母は定期的な往診を受けていて、総合病院への入院を手配してもらったこともある。



**給食で地元の食材を
日常的に味わう暮らし**

各校で作られる給食には塩産の魚介や野菜、塩・味噌・醤油などがふんだんに使われ、郷土学習の生きた教材になっている。生産者にとっては地域の子もたちを育む営みが生きがいとなる。



**地元産食材を用いて
「作って食べる」を
楽しむ暮らし**

日常的に地元食材を使って料理をする人が多くなった。牡蠣やホヤの殻をむく、めかぶを湯通しして刻むなどの下処理は、小さい頃から経験する機会が多く、だれもが自分のできる。



第3章 快適に住み続けられるまち(生活)

まちづくりの方向性

安全で安心なコンパクトさを生かした住環境づくり

- 第1節 災害などに対する「強さ」と「しなやかさ」を持ち、安全・安心に生活できる都市環境づくり
- 第2節 コンパクトで生活サービスが充実した「住んでいたい・住んでみたいまち」の形成
- 第3節 豊かな自然と調和した環境にやさしい循環型社会の形成

※しおがま未来創生プロジェクトとして、より重点的に取り組む施策や指標は各プロジェクトのマークで示しています。



施策体系

第1節 災害などに対する「強さ」と「しなやかさ」を持ち、安全・安心に生活できる都市環境づくり

1 市民一人一人の防災・減災意識の向上

- ① 東日本大震災での教訓を生かし、一人一人が日ごろから災害を「我が事」として捉え、災害時の「自助・共助」による具体的な行動につながるよう、防災訓練や津波防災センターを活用した防災教育の充実に努めます。 すみよさ
- ② 災害時の対応方法や地域ごとの災害リスクへの理解を深めるため、ハザードマップ^{※30}を充実させ、あらゆる機会を活用しながら普及啓発を行います。

2 地域防災力の強化

- ① 自主防災組織の育成や消防団員の確保を通じて、市民との協働による防災力の向上に取り組むとともに、消防施設の整備を計画的に進め、資機材の適正な維持管理に努めます。 すみよさ
- ② 木造住宅の耐震診断や耐震改修について、普及啓発と支援に努めるとともに、公共施設や上下水道施設についても計画的に耐震化を進めます。
- ③ 浸水に対する安全度の向上を図るため、10年に1度の雨量にも対応できるよう、雨水施設の計画的な整備と適切な維持管理に努めます。

3 犯罪が起こりにくいまちづくりの推進

- ① 犯罪が起こりにくい環境整備に向けて、防犯協会をはじめとした関係機関との連携を強化するとともに、防犯カメラや防犯灯の整備に向けた支援を行います。 すみよさ
- ② 空き家の実態を把握し、危険と思われる空き家については所有者等に対し適切な管理を行うよう啓発に努めます。
- ③ 交通安全施設の整備と適正な維持管理を行うとともに、交通事故防止に向けた普及啓発に努めます。
- ④ 悪質・巧妙化する特殊詐欺や消費者トラブルを未然に防ぐため、日ごろから情報の収集や啓発に努め、相談しやすい体制を整えます。

4 新型コロナウイルスへの対応

- ① 日ごろから感染対策の普及啓発に努めるとともに、速やかにワクチン接種体制を構築できるようにするなど、新型コロナウイルスの発生に備えます。 すみよさ
- ② 市民の生命及び健康を守るため、国や県などと連携し、可能な限り感染拡大の抑制に努めるとともに、市民生活や地域経済への影響を最小限に止めます。 すみよさ



消防団出初式

※30 【ハザードマップ】発生が予測される自然災害について、その被害の及ぶ範囲、被害の程度、さらに避難の道筋、避難場所等を表したもので、市で公開している災害予測地図。

第2節 コンパクトで生活サービスが充実した「住んでいたい・住んでみたいまち」の形成

1 地域特性を生かした、安全・快適で魅力のある住環境の整備推進

- ① 「住んでいたい・住んでみたいまち」の形成に向けて、コンパクトシティや魅力ある景観など、本市の特性を最大限に生かした住環境の整備に努めます。 すみよさ にぎわい
- ② 公営住宅の長寿命化を推進し、適切な維持管理に努めます。
- ③ 活用可能な空き家については、事業者と連携した空き家バンクの積極的な活用などにより、定住人口増加に向け、あらゆる視点で利活用を促進します。 にぎわい
- ④ 障がいのある人や高齢者向けの住宅のバリアフリー化を支援します。
- ⑤ 住環境の向上のため、地域と連携しながら狭あい道路の改善に努めます。

2 気軽に集える憩いの空間の創出

- ① 伊保石公園については、幅広い年齢の子どもたちが遊べる場や眺望の魅力を生かせる場として、より市民に親しまれる環境の創出に努めます。 よろこび
- ② 点在する身近な公園については、地域や事業者との協働による維持管理に向けた体制を構築し、みんなが利用しやすい環境を整えます。

3 安全で安心な生活基盤の確保

- ① 道路については、計画的な整備と維持管理に努めるとともに、バリアフリー化の推進など、安全で魅力のある歩道の整備に努め、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を目指します。 すみよさ
- ② 公共施設については、人口減少や少子高齢化による需要の変化に対応するため、長期的な視点から更新・統廃合・長寿命化などを計画的に実施します。 すみよさ
- ③ 安全でおいしい水をいつでも供給できるよう、良質な水の確保と将来にわたる水の安定供給に努めます。
- ④ 下水道（汚水）の未普及解消を進めるとともに、施設の適切な維持管理に努めます。

4 公共交通体系の充実強化

- ① バスやタクシー事業者と連携し、市内4駅を起点とした公共交通体系を充実させ、回遊性を高めるとともに、駅前広場の機能の維持に努めます。 すみよさ



塩竈市のまちなみ

第3節 豊かな自然と調和した環境にやさしい循環型社会の形成

1 自然環境の保全と活用

- ① 海辺のまちでの暮らしを最大限に享受できるよう、特別名勝松島をはじめとした貴重な自然景観や親水空間の保全に努めます。
- ② まちのみどりを守り、後世に伝えていくため、子どもたちの環境教育の充実や、市民・事業者の環境活動を支援します。

すみよさ

2 循環型社会の実現

- ① 脱炭素社会の実現に向けて、市民・事業者と連携を図りながら、地域特性を生かした再生可能エネルギー等の活用について調査・研究を進めます。
- ② 環境に配慮した社会資本整備や交通体系の推進など、環境に優しく負荷の少ない都市基盤の実現を図ります。
- ③ 廃棄物処理施設の適正な維持管理に努め、生活環境の清潔保持と環境保全、公衆衛生の向上を図ります。
- ④ 「3R(スリーアール)」活動について普及啓発を促進するとともに、市民・事業者による主体的な取組を支援します。

すみよさ



海辺に親しむシーカヤック体験

成果指標

NO	指標名		基準値	目標値	SDGs ローカル指標	備考
1	自主防災組織結成団体数	すみよさ	83団体 (令和2年度)	90団体 (令和8年度)		
2	重要水道管路の耐震化率		58.1% (令和元年度)	64.8%以上 (令和8年度)		
3	公共下水道雨水施設整備 (10年確率)の進捗率		27.2% (令和元年度)	30% (令和8年度)	11	
4	犯罪発生件数	すみよさ	267件 (令和元年度)	200件以下 (令和8年度)	16	
5	交通事故(人身事故) 発生件数		115件 (令和元年度)	85件以下 (令和8年度)		
6	「魅力ある都市空間の 形成」の満足度	すみよさ にぎわい	19.7% (令和元年度)	30% (令和8年度)	11	市民アンケート (市の取組評価)
7	空き家利活用件数	にぎわい	6件 (令和元年度)	45件 (令和8年度) ※5カ年累計	11	
8	伊保石公園休日来園者数	よろこび	15,000人/年 (令和2年度)	32,000人/年 (令和8年度)	11	
9	「交通体系の形成」の 満足度	すみよさ	22.4% (令和元年度)	30% (令和8年度)	11	市民アンケート (市の取組評価)
10	気候変動に関する 普及啓発活動数	すみよさ	-	2回以上 (令和8年度)	13	
11	1人1日当たりの家庭ごみ 排出量		721g (令和元年度)	645g (令和8年度)	12	
12	一般廃棄物のリサイクル率		20.7% (令和元年度)	22.7% (令和8年度)	12	

生活の分野では、地域の人たちが一緒になって防災に取り組む暮らしや、自然や歴史・文化などの地域特性を生かした暮らし、コンパクトシティの利便性を生かして環境に配慮する暮らしが描かれました。



まちの空き家を生かす暮らし

まちなかに残る古い住居はきれいにリフォームされ、子育て世代の夫婦が住んでいる。近くの商店におつかに走る子どもたちの姿が日常的に見られる。



おいしい水がある暮らし

いつでも安全で良質な水道水が使えるので、乾いた喉を気軽に潤すことができるし、自宅での料理も楽しめる。



地域に花を植えて交流する暮らし

子どもたちが学校の授業で種をまいて苗をつくり、地域のシニア世代と協力して歩道のプランターや公園の花壇に植えた。作業を通して世代を超えた交流が生まれている。毎年、四季の花が地域を彩る。



鹽竈神社からの風景を眺める暮らし

気分転換に鹽竈神社から千賀の浦(塩釜湾)の風景を眺める。神社にはほかにも、鹽竈神社博物館屋上からの風景や表参道を見上げる構図など、市民に人気の景観がある。



夏にカブトムシを見つける暮らし

夏、丘の上の公園ではカブトムシを見つけた子どもたちが歓声をあげる。木々が茂る場所は市内に多くあり、時には住宅地の公園でカブトムシが見られることも。



地図や地名の歴史を学び災害に備える暮らし

古地図に描かれた古い海岸線や地名に残るヒントをもとに、地区ごとの災害リスクについて学ぶ。知見は「津波防災センター」に集約されるとともに市民に共有され、地域の防災力が高まった。



防災訓練で地域住民の状況を共有する暮らし

年に2回、町内会単位で防災訓練が開催され、ほとんどの住民が参加する。訓練後にはみんなで鍋や豚汁を食べながら、災害時に支援が必要な住民の情報などを共有する。



海が見える公園でバーベキューを楽しむ暮らし

海が見える公園で、家族でバーベキュー。お腹がいっぱいになったら、芝生を走り回る子どもたちを見守りながら、パパとママはゆっくりと時間を過ごす。



海が近くにある暮らし

海辺には、いつも犬と散歩する人や釣りを楽しむ人の姿が見られる。海の水も年々きれいになってきた。湾内に形成された干潟では子どもたちがカニやゴカイを見つけて歓声をあげる。



道や橋を名前でおぼえる暮らし

市内の多くの道や歩道橋には地域住民がつけた名前がある。住民どうしの会話で愛着をもって用いられるうちに、行政上の名称としても定着した。



丘の上の空き家を改装したカフェで談笑する暮らし

海が見える丘の上の空き家を地域のみんで改装してカフェを作った。コーヒーやケーキのほか、お茶や和菓子もあり、日々、さまざまな世代の住民が坂を登って集まってきては談笑している。



徒歩とバスと電車で移動する暮らし

バスの本数が多く、市内での用事はバスと徒歩で済ませられる。市内に4つある駅は、市外へ出かける市民の足としてよく利用されていて、環境にも配慮する人が多くなった。



第4章 活があり、誇りをもって働いている人が
たくさんいるまち(産業)

まちづくりの方向性

活力に満ちた産業づくり

- 第1節 数多くの地域資源を生かした
「みやぎの台所・しおがま」の創造
- 第2節 商工業者の持続的な経営安定や事業承継・新規創業への
支援の充実による地域活力の向上
- 第3節 海とみなとを生かした活力づくりや新たな産業と
若者も満足できる雇用の創出

※しおがま未来創生プロジェクトとして、より重点的に取り組む施策や指標は各プロジェクトのマークで示しています。



施策体系

第1節 数多くの地域資源を生かした「みやぎの台所・しおがま」の創造

1 多彩な地域資源を生かした食のまちづくり

- ① 食に関わるさまざまな産業の連携促進により、食のブランド力向上と新たな地域資源の創出を支援し、地域ブランディング^{※31}に努め、「食による産業振興」を図ります。 やりがい
- ② 安全・安心で魅力のある食の提供に向けて、衛生管理や環境に配慮した生産などに関する取組を支援します。 やりがい
- ③ 市民に地元の食や食文化に触れる機会を提供し、愛着を深めることで、地元での消費拡大を図ります。 やりがい
- ④ 事業者や関係団体と連携し、訪れる人々に本市の食や食文化に触れる機会を提供することで、「また来たい」と思われる取組を推進します。 にぎわい
- ⑤ 食に関わる人たちのネットワークを構築し、魚食をはじめとした食文化や塩竈の食材を生かした体験学習活動などを協働して展開することにより、食育を推進します。(再掲) やりがい

2 水産品・水産加工品の流通拡大

- ① 魚市場においては、衛生管理を徹底するとともに、積極的な漁船誘致活動を行い、新たな取り扱い魚種の拡大を推進するなど、水揚げ増進に努めます。 やりがい
- ② 水産品・水産加工品を活用した、新たな「食」の提案につながる取組の推進や、事業者・大学などと連携した魚食に関する体験機会の充実などにより、魚食文化の継承と地元からの消費拡大を図ります。 やりがい
- ③ 水産品・水産加工品の流通拡大に向けて、さまざまな商談機会を活用した商材の情報発信による国内販路の回復や、海外の食文化に適合した商品開発などによる輸出商流の確立を支援します。 やりがい



三陸しおがまひがしもの



新しい魚市場

※31 【地域ブランディング】地域の固有性を持つ資源(原材料、加工・製造技術、歴史的いわれ等)を活用して、地域の商品にブランドの機能を持たせる取組

第2節 商工業者の持続的な経営安定や事業承継・新規創業への支援の充実による地域活力の向上

1 「チャレンジしたくなるまち」に向けた魅力向上

- ① 若い世代を中心に、だれもがチャレンジしたくなる創業支援体制の構築を図ります。 やりがい
- ② 中小企業が持つ貴重な技術やノウハウを引き継ぐため、事業承継に係る普及啓発やサポートに努めます。 やりがい

2 地域経済の基盤強化

- ① 中小企業の経営安定と経営基盤強化のため、商業関係団体や金融機関等と連携した支援の充実にも努めます。

3 個店の魅力が上がる商店街づくり

- ① 個店の魅力を創造する取組や、地域や個店が連携して門前町の風情を生かすなど、それぞれの商店街の魅力を高める取組を支援し、市民から親しまれる商店街づくりに努めます。 やりがい



イベントで賑わう商店街



門前町のまちなみ

第3節 海とみなとを生かした活力づくりや 新たな産業と若者も満足できる雇用の創出

1 海・みなとへの愛着づくりと塩釜港区の利活用

- ① 北浜緑地公園を中心とした親水空間、千賀の浦緑地をはじめとした港奥部のイベントスペース、マリングート塩釜が持つ観光拠点機能の一体的な活用を図り、港町塩釜の発展を支えてきたベイエリアを再生します。 にぎわい
- ② 港湾計画に基づく塩釜港区の機能強化の促進と、安全で円滑なベイエリア周辺の道路網整備に向けて、国・県に対しての働きかけに努めます。 にぎわい
- ③ 塩釜港区の立地の優位性や本市独自の優遇制度など、ポートセールスに取り組み、入港船舶や貨物量の増加を図ります。 やりがい

2 地域特性や地域課題を踏まえた雇用創出と産業共創

- ① 産業の大きな課題となっている人材不足の解消に向けて、多様な人材が活躍できるよう、制度拡充などについて国に働きかけるとともに、雇用環境の整備を図ります。 やりがい
- ② 本市の歴史・文化や自然、立地の優位性など、地域特性をもつ遊休地の情報を積極的に発信し、若者も魅力を感じる企業の誘致に努めます。 やりがい
- ③ 大学や企業との積極的な連携により、地域課題解決に向けた実証実験の場の提供などを通じて、新たな産業の種を共に創ります。 やりがい
- ④ 自然環境やコンパクトシティの利便性を生かしたリモートワーク^{※32}の環境整備やサテライトオフィス^{※33}の誘致に努めます。 やりがい



マリングートからみたベイエリア

※32 【リモートワーク】コンピュータや通信回線などを利用して、勤務先のオフィス以外の場所で仕事をする事。
 ※33 【サテライトオフィス】企業の本社・本拠地から離れた場所に設置されたオフィスのこと。都市内、郊外、地方などで多様な働き方を促進することを旨とする。

成果指標

NO	指標名		基準値	目標値	SDGs ローカル指標	備考
1	全水揚量に占める鰹・鯖一本釣漁業水揚量の割合	やりがい	14.5% (令和2年)	20% (令和8年)		
2	地元の食材を利用したイベント回数	やりがい	5回 (令和2年度)	8回 (令和8年度)		
3	塩釜産品販路拡大支援事業による水産品輸出出荷量	やりがい	2,289kg (令和2年度)	3,433kg (令和8年度)		
4	創業支援等事業計画に基づく新規創業者数	やりがい	-	40件 (令和8年度) ※5カ年累計		
5	塩釜港区取扱貨物量	やりがい	214万トン (令和元年)	250万トン (令和8年)		
6	事業所数(民営)	やりがい	2,849件 (令和元年)	2,849件 (令和8年)		

産業の分野では、子どもたちが地元の食材を使って楽しく学ぶ姿や、新しい商品を共同で生み出す姿、仲卸市場や地元の商店で楽しく買い物をする姿など、活気のある暮らしが描かれました。



近所に行きつけの店がある暮らし

地域には個人経営のさまざまな店があるので、たいていの買い物は徒歩圏内で済ませている。店主も客も同じ地域の住民。毎日の買い物の中で信頼関係が生まれている。



魚市場で干物作りを体験する暮らし

魚市場の調理室で定期的開催される市民向け料理教室で、市内の加工業者が講師となって旬の魚介を使った料理を作る。魚市場職員の案内でセリを見学し、流通についても学ぶ。



かまぼこ作りを通して魚や水産業について学ぶ暮らし

小中学校では魚を釣ってかまぼこを作る体験学習が定番。漁師や水産加工業者、研究施設の職員らが講師となり、魚のさばき方、調理法のほか、海洋環境や水産資源の現状について学ぶ。



人々が行き交う駅前で購入物や食事を楽しむ暮らし

駅前には地元商品を扱う店や塩竈の食材を使った食べ物を提供する店が並び、いつも多くの人が行き交う。店と客とのコミュニケーションの中で新たな商品や料理が生まれることも多い。



漁師や農家・林業家の仕事に肌で触れる暮らし

市内や近隣市町の漁師、農家、林業家の協力を得て、漁業・農林業体験をする。近隣市町との連携によって、子どもたちは地域の産業について幅広く知ることができる。



自分で釣ったハゼで正月の雑煮を作る暮らし

正月の雑煮のダニに「焼きハゼ」を使う家庭が多い。秋になると、各家庭ではハゼを焼いて干す光景が見られる。ハゼは自分で釣る人が多く、たくさん釣れたら近所におすそ分けする。



桜味のスイーツを味わう暮らし

市内の菓子店が共同開発した桜味のスイーツが塩竈の新名物となり、市民にとって春を待つ楽しみが一つ増えた。市内でしか買えないため、市外に住む友人に自慢げに送るのも楽しみ。



塩竈のソウルフードを伝える暮らし

塩竈汁や焼きガキ、地元産かまぼこを使った塩竈流おでんなどが市民のソウルフードとして定着した。家庭でも地域の集まりでも食べる機会が多く、大人も子どもも大喜びする。



地元産食材を使った郷土料理が食卓に並ぶ暮らし

日々の食卓には地場産の魚介や野菜などを使った料理が並び、老舗酒蔵の地酒で晩酌をする。ご近所の集まりで「晩のおかず」を持ち寄る機会が多く、人気のおかずが郷土料理として定着した。



勤めながら小商いを始める暮らし

会社に勤めながら、農林漁業や作家活動、加工食品製造など趣味や特技を生かせる分野で「小商い」を始めて副収入を得る。副業が軌道に乗り、会社を辞めて本業にする人も多い。



塩竈で水揚げされた魚介を仲卸市場で選ぶ暮らし

魚市場にはマグロ以外にもさまざまな魚介が揚がる。仲卸市場での買い物の醍醐味は、食材の旬やおいしい食べ方を店の人に聞けること。



地元産かまぼこを使った「塩竈流おでん」を楽しむ暮らし

市内の食品加工業者が知恵を出し合って完成した「塩竈流おでん」が、地元の味として定着した。市内の飲食店で「おでん」を注文すると「塩竈流おでん」が出てくるのが普通。



毎週開かれる市に手作り品を持ち寄る暮らし

地域の広場でフリーマーケット形式の市が毎週開かれ、住民らが手作りの食品や小物などを販売する。物々交換での取引も盛ん。楽器演奏の指導などサービスを売る人もいる。



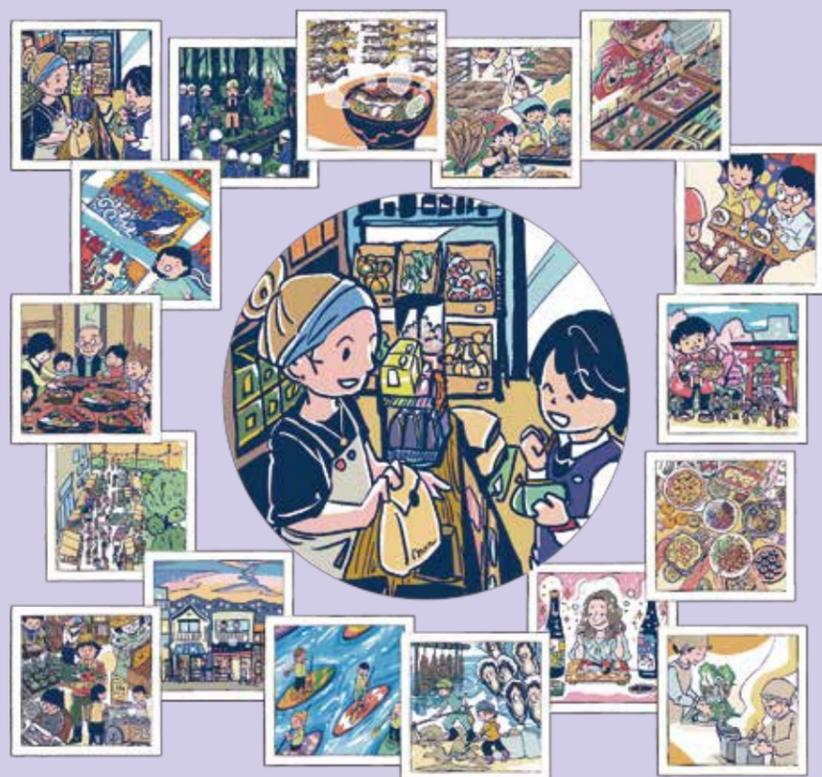
初デートで本町を歩く暮らし

初めてのデートで本町を歩き、少し背伸びをしてシックなカフェでケーキを食べる。初々しい2人をカフェ店主もまちの人もあたたかく見守っている。次のデートでは浦戸に行く約束をする。



いいことがあると寿司で祝う暮らし

誕生会や結婚記念日など、お祝い事で寿司を食べる家庭が多い。寿司店はお祝い用の華やかな盛り付けを工夫している。地域の祭りでは長い鉄火巻きをみんなで作って楽しむ。



第5章 何度でも訪れたいまち(交流)

まちづくりの方向性

観光交流による賑わいづくり

第1節 地域資源を最大限活用した観光メニューの創出

第2節 塩竈ブランドの確立とおもてなし体制の充実・
広域連携による交流人口の拡大

※しおがま未来創生プロジェクトとして、より重点的に取り組む施策や指標は各プロジェクトのマークで示しています。



施策体系

第1節 地域資源を最大限活用した観光メニューの創出

1 “塩竈でしか味わえない”魅力ある観光メニューの創出

①「鹽竈神社と門前町地区」、「ベイエリアとマリングート地区」、「市場地区」、「浦戸諸島」の4つの観光拠点を中心に、歴史、祭り^{※34}をはじめとした文化、多彩な食などの地域資源を結びつけたストーリー性のある観光メニューの創出を図ります。

にぎ
わい

②観光客のニーズや動向などを調査し、マーケットインの発想により観光メニュー創出に努めます。

③事業者や関係団体と連携し、訪れる人々に本市の食や食文化に触れる機会を提供することで、「また来たい」と思われる取組を推進します。(再掲)

にぎ
わい

2 観光拠点の魅力の磨き上げと回遊性の向上

①「鹽竈神社と門前町地区」については、これまでの歴史や文化を物語として発信するとともに、商店街などの関係団体と連携しながら、特色ある体験、食事、買い物など、さまざまな活動を楽しんでいただける環境を整えます。

にぎ
わい

②「ベイエリアとマリングート地区」については、北浜緑地公園や千賀の浦緑地とマリングート塩釜を一体的に活用し、海辺に親しめるエリアとして磨き上げを行うとともに、松島湾観光と浦戸諸島への玄関口としての魅力向上を図ります。

にぎ
わい

③「市場地区」については、魚市場と水産物仲卸市場のつながりを深め、水産品や水産加工品を「食べて」「買って」「体験」できる観光拠点として強化します。

にぎ
わい

④「浦戸諸島」については、島のよさや島の暮らしを丸ごと体験できる滞在・体験型のメニューを充実させ、個人旅行や教育旅行の受入態勢を整えます。

にぎ
わい

⑤観光拠点間の回遊性を高めるため、二次交通(周遊バスやタクシー、シャトル船など)の運行などによるネットワークを構築します。



賑わうみなと祭り

※34 【鹽竈神社の祭り】鹽竈神社の氏子三祭(神輿が市内巡幸)として、3月に開催される火伏の祭りである「帆手祭」、4月の桜の季節に開催される「花祭」、7月に開催され日本三大船祭に数えられる「みなと祭」がある。

第2節 塩竈ブランドの確立とおもてなし体制の充実・広域連携による交流人口の拡大

1 塩竈ブランドの確立

①観光振興コンセプト^{※35}『千年の歴史と美食にであう港町・塩竈』を推進するとともに、歴史や食を生かした塩竈ブランドを確立し、統一したイメージで全国・世界に発信します。

にぎ
わい

2 戦略的なプロモーションの推進

①観光情報の発信手段の多様化と内容の充実を図り、ターゲットを意識した情報発信に取り組めます。

②動画の活用などによるマスメディア向けPR素材の充実や、鉄道・航空などの交通機関と連携した情報発信に取り組めます。

3 笑顔でのおもてなしとシビックプライドの醸成

①観光ガイドボランティアなどの関係団体との連携を強化するとともに、よりテーマ性のある有料ガイドや、観光についての企画と事業推進を担う観光プランナーなどの人材育成を図ります。

にぎ
わい

②観光案内所や各観光拠点の受入態勢の充実を図ります。

4 つながりの強化による発信力の向上

①県や関係自治体、観光地域づくり法人(DMO)等との連携により発信力を高め、交流人口と関係人口の創出を図ります。



観光ボランティアガイドの取組

※35 【観光振興コンセプト】塩竈市観光の理念として、平成30年3月に策定した「塩竈市観光振興ビジョン」で設定したもの。

成果指標

NO	指標名		基準値	目標値	SDGs ローカル指標	備考
1	観光客入込数	にぎ わい	236.9万人 (令和元年)	244.2万人 (令和8年)		
2	観光消費額 (日帰り単価)	にぎ わい	3,920円 (平成29年度)	4,100円 (令和8年度)		
3	観光案内所の利用者数	にぎ わい	16,692人 (令和元年)	18,000人 (令和8年)		
4	ふるさと納税による 寄付者数		6,097人 (令和2年度)	9,200人 (令和8年度)		

交流の分野では、市民や観光客が家族や仲間たちと年間を通して季節ごとの塩竈の魅力を味わう暮らしが描かれました。



塩竈神社の桜を愛でる暮らし

塩竈神社で、桜の花を眺めながら歩く。国の天然記念物・シオガマザクラをはじめさまざまな種類の桜があるので花を楽しめる期間が長い。境内の茶店で団子を食べるのも楽しみ。



「食」をテーマにした祭りや近隣市町と交流する暮らし

年に数回、魚市場や仲卸市場、神社周辺などで食をテーマにした祭りが開かれる。近隣市町で採れた野菜や米、果物などの作物や、各地域の名物料理が集まり、広域的な交流の場となる。



海の恵みに感謝して大漁旗を掲げる暮らし

1年に1回、海の恵みに感謝する祭りが開かれる。港や市場には大漁旗が翻り、市民は海産物をお腹いっぱい食べる。地元酒蔵による振る舞い酒を楽しみにしている人も多い。



船で行われるパーティーに参加する暮らし

松島湾を遊覧する船上でパーティーが催される。参加者は景色を眺めつつ、海産物やお酒など、塩竈の味も楽しみながら会話を弾ませる。仕事や恋愛のパートナーに出会う人も多い。



音楽イベントに出演する暮らし

「GAMA ROCK FES」は秋の音楽イベントとして定着した。ほかにも駅前広場や市内のホールなどで音楽イベントが毎月のように開催され、多くの市民が出演者や観客として楽しむ。



門前町の風情を感じる暮らし

塩竈神社周辺では古い建物が店舗などとして活用され、門前町の風情がたどようまち並みが形成されている。御釜神社や道端のベンチには談笑する人の姿が見られる。



季節の地酒と肴を楽しむ暮らし

市内の酒蔵が季節ごとに発売する酒は塩竈の風物詩のひとつとなり、毎年、辛党の市民が待ちわびる。飲食店では、地元の食材を使い、地酒に合わせた季節の料理を提供している。



初詣やお祭りの日に屋台で食べ歩く暮らし

大晦日・元日や、神社の祭りの日には、裏坂周辺に並ぶ食べ物や遊戯などの屋台でお祝い・お祭り気分を満喫。一帯は親子連れや仲間と集まった小中高生らで賑わっている。



地域の魅力を撮影して発信する暮らし

市内在住のカメラマンが地域の祭りや名所、特産品、話題の料理やスイーツなどを撮影し、市内外に発信している。地域の魅力を撮影した写真のコンテストも毎年開催されている。



海で遊ぶ暮らし

市内外からたくさんの方が訪れ、釣り、海水浴、シーカヤックやSUP、海辺でのバーベキューなど、海での遊びを楽しむ。海辺が活性化につれ、多くの雇用も生まれた。



子どもたちが塩竈の魅力を人に伝える暮らし

塩竈の歴史・文化に関心を持って勉強会などで学ぶ市民が多く、子どもたちも学校や地域でまちの魅力を知り人に伝える学習活動をしている。観光ガイドのボランティアに参加する中高生が多い。



松尾芭蕉の足跡をたどる暮らし

松尾芭蕉が歩いた道を散策するウォーキングツアーに参加する。ガイドによる解説を聞きながら歩くことで、多賀城・松島など周辺地域との文化的つながりを感じられる。



第6章 日常に彩りがあるまち(文化)

まちづくりの方向性

生涯にわたって学びあえる風土づくり

- 第1節 豊かな歴史やこれまで培ってきた文化を
未来へつなぐ取組の充実
- 第2節 生活にうるおいを与える生涯学習・生涯スポーツの展開
- 第3節 芸術・文化・スポーツなど、各分野で活躍できる人材の育成

※しおがま未来創生プロジェクトとして、より重点的に取り組む施策や指標は各プロジェクトのマークで示しています。



施策体系

第1節 豊かな歴史やこれまで培ってきた文化を未来へつなぐ取組の充実

1 塩竈に息づく歴史・文化の保存

- ① 国指定重要文化財の鹽竈神社や特別名勝松島をはじめとした貴重な文化財を市民の共有財産として守ります。 すみよさ
- ② 市内に残る貴重な歴史的建造物の保存や歴史資料の収集に努め、まちづくりに生かします。 にぎわい
- ③ 地域の文化や芸能を継承する団体を支援するとともに、さまざまな活動で連携を図ります。

2 歴史・文化の活用によるシビックプライドの醸成

- ① 講演会や講座等の充実を図り、幅広い年代の市民が、塩竈の人、歴史・文化、自然について学ぶ機会を提供します。 すみよさ
- ② タイムシップ塩竈や Web 博物館「文化の港シオーモ」の充実を図るとともに、郷土愛を育む「塩竈学」の取組を推進し、本市の歴史・文化の魅力を市内外に積極的に発信します。
- ③ 文化財、歴史的建造物、食文化などの魅力を生かした交流を推進します。 にぎわい



国指定重要文化財鹽竈神社

第2節 生活にうるおいを与える生涯学習・生涯スポーツの展開

1 生涯にわたって楽しく学べる環境づくり

- ① 一人一人の主体的な学びを大切にしながら、多様な方式やさまざまなメニューによる学習機会の提供に努めます。 すみよさ
- ② 学びから学び合いへとつながるよう、学習団体の育成とネットワークづくりを推進しながら、学びの成果を発揮できる環境をつくります。
- ③ だれでも気軽に生涯学習活動に参加できるよう、生涯学習施設の環境整備に努めます。

2 生涯にわたってスポーツに親しめる環境づくり

- ① 生涯にわたって健康な生活を送れるよう、幼児期・少年期からさまざまなスポーツを体験できる機会や、一人一人のニーズに沿ったスポーツに親しめる機会を提供します。 すみよさ
- ② スポーツ施設の環境整備を図るとともに、効率的・効果的な管理運営に努めます。

3 生きがい創出と地域の活力向上

- ① 生涯学習やスポーツを通じたボランティア育成などにより、市民の生きがい創出を図り、地域の活力向上に努めます。



シオーモ絵本まつり(ふれあいエス塩竈)

第3節 芸術・文化・スポーツなど、各分野で活躍できる人材の育成

1 創造性豊かな人材育成への支援

- ① 市民交流センターや杉村惇美術館などの文化施設を中心に、子どもの頃から良質な文化・芸術に触れる機会を提供することで、創造性豊かな人材の育成に努めます。
- ② 地域で学び続けるために、社会教育関係団体、自主サークルなどの育成・支援を図ります。

よ
こ
び

2 スポーツを通じた人材育成への支援

- ① プロスポーツチームとの連携強化や地域のスポーツ団体への支援の充実により、スポーツを通じた人材育成に努めます。

よ
こ
び

3 文化の創造や発信の促進

- ① 一流のアーティスト・アスリートに触れる機会を提供するとともに、市民主体の取組を支援し、文化の創造につなげます。
- ② 市民交流センター、生涯学習センター、杉村惇美術館などの多彩な取組を市内外に広く発信します。



一流アスリートと子どもたちとのふれあい(塩釜ガス体育館)



暮らしの市(杉村惇美術館)

成果指標

NO	指標名		基準値	目標値	SDGs ローカル指標	備考
1	「歴史の継承と文化の振興」の満足度	すみ よさ	24.3% (令和元年度)	28.0% (令和8年度)		市民アンケート (市の取組評価)
2	過去1年間に学習活動を行った人の割合	すみ よさ	48.1% (令和3年度)	基準値を上回る 数値 (令和8年度)		生涯学習 アンケート
3	市民図書館の満足度	すみ よさ	68.5% (令和2年度)	80%以上 (令和8年度)		市民図書館利用者 アンケート
4	週に1回以上スポーツを行った人の割合	すみ よさ	48.0% (令和3年度)	基準値を上回る 数値 (令和8年度)		生涯学習 アンケート
5	スポーツ全国大会等出場者 褒賞金交付者数		8人 (令和2年度)	30人 (令和8年度)		
6	生涯学習施設と事業の 満足度	よ こ び	エсп 82.1% 公民館 69.9% 美術館 82.3% (令和3年度)	基準値を上回る 数値 (令和8年度)		生涯学習 アンケート
7	市民交流センター・ 遊ホールの事業の満足度	よ こ び	94.4% (令和2年度)	100%に近づける (令和8年度)		事業後の来場者 アンケート

文化の分野では、市民が日々の生活の中で、豊かな歴史や文化に親しみ、芸術などの創造的な活動に関わり、表現し合う暮らしが描かれました。



鹽竈神社に見守られながら、鹽竈神社を見守る暮らし

多くの市民が常に鹽竈神社の加護を感じ、初詣、結婚、七五三、合格祈願などの節目には挨拶に訪れる。神社の営みや環境を維持するのも市民の力によるところが大きい。



点在する「新旧ランドマーク」に親しむ暮らし

寺社、碑、老舗などの歴史的な建造物と、吾番館やエスパなどの建物とが調和したまち並みは、古いものと新しいものを柔軟に取り入れるこのまちの文化を象徴している。



退職後、学校に通って学び直す暮らし

地域の小中学校で、教養を深めたい人や資格取得を目指す大人のための講座が開かれ、多くの中高年が通う。子どもたちと一緒に学び、交流できる講座もある。



文化財を舞台に文化を紡ぐ暮らし

勝画楼、旧えびや旅館、杉村惇美術館など、地域の歴史を物語る建築物は市民の手によって大切に保存されている。人々が学び、交流する場として活用され、新たな文化が紡がれている。



街角のライブパフォーマンスに足を止める暮らし

駅前広場や公園などでは歌や楽器演奏、大道芸などのパフォーマンスが日常的に繰り広げられ、街に笑顔と活気をもたらす。塩竈のストリートは多くの有名アーティストを輩出した。



土地の文化をアートで表現する暮らし

地域に根付いてきた生業や暮らしを掘り下げ、絵画作品や楽曲で表現し続けるアーティストがいる。作品は地域住民らにとって、土地の文化を捉え直す機会となる。



古今東西のアート作品に触れる暮らし

美術館などでは国内外の有名作家や地元の若手など、さまざまな芸術家の作品に触れることができる。遊ホールでは演劇や人形劇、神楽などが定期的に上演され、舞台アートの世界を楽しめる。



趣味・特技を発表し合う暮らし

市の芸術文化祭や町内会単位の展覧会、発表会など、活動の成果を発表する場が多くある。人に見られるという刺激は、活動を続ける上での意欲につながる。



ストリートでダンスの技を磨き合う暮らし

市内の路上ではさまざまなレベルのダンサーがパフォーマンスや練習をしている姿が見られる。互いに技を見せ合ったり、経験者が初心者にアドバイスしたりするなど、ダンサー同士の交流も盛ん。



図書館で読書会に参加する暮らし

図書館で司書の助言を受けながらさまざまな書物に触れ、思考を深める。時々開催される読書会に参加すると、他者の視点を感じたり新たな分野の面白さに気づいたり刺激的な経験ができる。



自分の作品がまちなかに展示される暮らし

市内で活動するアーティストやアートを学ぶ学生の作品が、公共施設、公園、道路などに展示されている。ところどころに有名作家の作品も置かれ、まち全体が美術館のようになった。



活気に満ちあふれた塩竈の様子を後世に伝える暮らし

江戸時代に仙台藩の庇護を受け、門前町や花街、流通拠点として賑わった歴史は郷土史家らによって詳らかにされた。また、書物や芸術作品として残され、地域住民らにも知られるようになった。



神社や公園でヨガや太極拳を楽しむ暮らし

商店街にある神社の境内や住宅地の公園で太極拳の稽古をする。年齢も性別も体格もさまざまな参加者が、ゆったりした動きの中で自分の心身と向き合う。別の日にはヨガ愛好者のグループが活動している。



近所のミニシアターで気軽に名画を楽しむ暮らし

小規模な映画館が点在し、気軽に映画を楽しめる。名画座、自主制作映画専門、ドキュメンタリー専門など、館によってコンセプトが異なり、大手シアターでは扱われない作品が上映されることが多い。



第7章 みんなが主役になれるまち(協働)

まちづくりの方向性

さまざまな個性がつながり、
役割を発揮できる環境づくり

- 第1節 塩竈の魅力向上に向けた市民活動への支援体制の充実
- 第2節 大学や企業等との交流・連携・共創と
多様化する社会への理解促進
- 第3節 効果的・効率的で透明性の高い行政経営

※しおがま未来創生プロジェクトとして、より重点的に取り組む施策や指標は各プロジェクトのマークで示しています。



施策体系

第1節 塩竈の魅力向上に向けた市民活動への支援体制の充実

1 まちづくりに関わりたくなる環境づくり

- ① まちづくり活動を始めたいという市民や市民活動に取り組んでいる団体に向けて、多様な学習機会を提供します。
- ② 市民活動への関心や参加意識を高めるため、幅広い分野の情報収集とさまざまな手段や機会を活用した情報提供に努めます。

すみ
よび

2 市民活動団体との協働・連携の推進

- ① 政策形成過程への市民活動団体の参画を促進することで、協働のまちづくりを進め、パートナーシップの強化を図ります。
- ② 市民活動団体同士が交流する機会の創出や、連携した取組への支援の充実により、市民活動団体の横のつながりを深めます。

にぎ
わい

3 相談・支援体制の充実と気軽に集えて活動できる環境づくり

- ① 協働による地域課題の解決に向けて、相談・支援体制の充実を図ります。
- ② 自主的な活動や交流できる場の提供を通じて、気軽に集えて活動できる環境を整えます。



未来の100の暮らしワークショップの様子

第2節 大学や企業等との交流・連携・共創と多様化する社会への理解促進

1 協働・共創によるまちづくり

- ① 市民、NPO、企業、金融機関など、多様な主体が参画した協働・共創によるまちづくりを推進します。
- ② まちの活性化や地域課題の解決に向けて、大学や企業などとの包括的な連携を強化し、幅広い知見や技術などを積極的にまちづくりに取り入れます。

にぎ
わい

にぎ
わい

2 性別に関わらずみんなが等しく活躍できる社会づくり

- ① ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）に向けた取組を推進するため、家族で仕事と家事・育児・介護など、家庭内の役割を協働して担えるよう、意識啓発と学習機会の提供に努めます。
- ② ドメスティックバイオレンス（DV）の防止に向けて、あらゆる機会を通じて啓発を行うとともに、被害者の自立に向けた支援の充実にも努めます。
- ③ 性別に関わらず、やりがいをもって働ける就労環境づくりに向けて、企業などと連携して取り組みます。

やり
がい

3 多文化共生社会への理解促進

- ① 国際理解や国際交流を促進するため、関係機関・団体との連携強化と支援の充実にも努めます。
- ② 市内に住む外国人が地域の一員として安心して暮らせるよう、多文化共生社会への理解促進にも努めます。



子どもたちと外国人技能実習生のふれあい

第3節 効果的・効率的で透明性の高い行政経営

1 効果的な情報発信と情報共有

- ① 市政だよりやホームページの内容充実を図るとともに、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)^{※36}の活用など、時代のニーズに応じた効果的な情報発信を行います。
- ② 市民とのパートナーシップを深めるため、だれもが自由に市政運営に対して意見を言える機会の充実に努め、双方向の情報共有を推進します。

すみ
よさ

すみ
よさ

2 きめ細やかで持続可能な行政経営

- ① 計画的な財政運営や適正な定員管理、アウトソーシング^{※37}やデジタル化などの行財政改革を推進し、持続可能な行政経営に努めます。
- ② 情報公開の充実により、市民から信頼される透明性の高い行政運営に努めます。
- ③ 市民目線に立ち、地域課題等に即時に対応できるよう、職員の育成に努めるとともに、組織力の強化を図ります。
- ④ 分散している行政機能の集約に向けて、新たな庁舎整備の方向性を検討します。

3 広域的な協力・連携による行政サービスの向上

- ① 周辺自治体との広域的な協力・連携により、共通課題の解決や行政サービスの向上に努めます。
- ② 東日本大震災において支援いただいた自治体との交流を深め、今後のまちづくりに生かします。

成果指標

NO	指標名		基準値	目標値	SDGs ローカル指標	備考
1	市民活動団体登録数	すみ よさ	94団体 (令和2年度)	100団体 (令和8年度)		
2	大学や企業などとの包括連携協定の新規締結件数	にぎ わい	-	10件 (令和8年度) ※5カ年累計		
3	「市の広報紙は読みやすい」と回答した市民の割合	すみ よさ	23.1% (令和元年度)	35% (令和8年度)		広報 アンケート
4	「市の情報を市のホームページで知る」と回答した市民の割合	すみ よさ	18.5% (令和元年度)	25% (令和8年度)		広報 アンケート
5	「市の情報を市のSNSで知る」と回答した市民の割合	すみ よさ	5.2% (令和元年度)	50% (令和8年度)		広報 アンケート
6	健全化判断比率 ①実質赤字比率 ②連結実質赤字比率 ③実質公債費比率 ④将来負担比率		①-(黒字) ②-(黒字) ③ 6.2% ④-(将来負担額なし) (令和元年度)	①-(黒字) ②-(黒字) ③ 6.0% ④-(将来負担額なし) (令和8年度)	17 SDG CLIMATE ACTION	

※36 【SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)】Web上で人と人との交流をはじめとした社会的ネットワークを構築可能にするサービスのこと。
 ※37 【アウトソーシング】人材やサービスを外部の専門業者に委託すること。PPP(パブリック・プライベート・パートナーシップ:公民連携)の手法の一つ。

協働の分野では、みんなで一緒に地域活動に参加する姿や異なる文化に触れる姿、まちの未来を語り合う姿など、さまざまな世代が協働でまちづくりに関わる暮らしが描かれました。



地域誌・ミニコミ紙で地域の情報を得られる暮らし

地域の個人や団体が発行する小メディアから、地域の情報を得る。投稿など紙面(誌面)上への読者参加も活発で、地域メディアが文化交流の場となっている。



みんなが休む日がある暮らし

地域の商店がすべて休みの日があり、だれもがのんびり暮らす。地域の祭りやイベントは休みの日に開催され、店主や地域の子供たちが参加して賑やかになる。



コミュニティFMで地域情報を得る暮らし

コミュニティFMでは日々、生活に役立つ地域情報が流れている。投稿やリクエストを通じたラジオ上での交流も盛ん。災害時の情報源としても市民の信頼が厚い。インターネット経由で聴く人も多い。



地域のサークル活動で生きがいを感じる暮らし

各町内会では俳句、写真、植物、ソフトボールなど、さまざまなサークルが活発に活動していて、住民の生きがいになるとともに、地域内外の住民同士の交流の場になっている。



子どもたちが外国人と交流する暮らし

子どもたちにとって言語や生活様式の異なる人が身近にいることは当たり前のこととなった。日常的な交流を通し、互いの文化を尊重して受け入れる姿勢が自然に身についている。



地区の新年会や忘年会で子どもたちと歌う暮らし

新年会、忘年会、敬老会など、町内会のイベントで住民らの交流が深まっている。毎回、地域の子供たちの合唱は大人たちの一番の楽しみ。大人たちも一緒に歌う。



町内会や小さなコミュニティに参加する暮らし

市内のどの地区でも住民どうしの交流が盛ん。地域活動においては子どもたち、親世代、高齢者がそれぞれの役割を果たし、和やかで暮らしやすい地域づくりに貢献している。



バスで行く「清掃ツアー」に参加する暮らし

市内の観光スポットや公園などをバスで巡って清掃するボランティア活動が盛ん。実際にはゴミはあまりないが、参加者にとっては健康増進だけでなく地域の魅力の再発見につながる。



まちの未来を語り合う暮らし

高齢者と若者が一緒になって理想のまちづくりを語り合う場がある。だれもが「地域の子供たちにどんな塩竈を残すのか」を真剣に考え、意見を交わす。議論の内容は市政に生かされる。



ムスリムの友人とレストランで食事する暮らし

市内には多くの外国人が住んでいるため、多くの飲食店がさまざまな宗教や食文化に対応したメニューを用意している。アレルギーのある人でも食べられる料理を提供する店も多い。



オシャレして街に出かける暮らし

年齢を問わずおしゃれを楽しむ人が多く、みんな自信に満ちた姿でカッコよく歩く。学生の間にはデートの服装を祖母に選んでもらうとうまくいくという都市伝説が生まれた。



第8章 自然と調和した和やかな暮らしと癒しがあるしま(浦戸諸島)

まちづくりの方向性

人々が住まい・集える持続可能な島づくり

- 第1節 健康で安心して住み続けられる生活環境の充実
- 第2節 浦戸産品(海産物・農産物)の高付加価値化や担い手育成による産業の振興
- 第3節 浦戸ならではの自然や歴史・文化を生かした交流の推進

※しおがま未来創生プロジェクトとして、より重点的に取り組む施策や指標は各プロジェクトのマークで示しています。



施策体系

第1節 健康で安心して住み続けられる生活環境の充実

1 市営汽船の利便性確保と経営安定化

- ① 島民の利用ニーズを適正に踏まえた快適な移動環境の提供に努め、市営汽船の利用促進を図ります。 すみよさ
- ② 運航体制の最適化とプロモーション活動に力点を置いた営業力の強化に努め、持続可能な航路運営を図ります。
- ③ 浦戸の基幹産業である海産物の輸送支援の継続や、観光客が利用しやすい環境の整備に努め、浦戸の産業と交流を支えます。

2 安定的な医療・福祉サービスの提供

- ① これからも安心して浦戸で暮らしていけるよう、年間を通じた定期的な診療体制の維持・提供を図ります。 すみよさ
- ② 浦戸地区に安定した介護サービスの提供を確保するため、地域包括支援センターによる相談支援体制の充実と介護サービス事業者の誘致に取り組みます。 すみよさ
- ③ 浦戸地区の介護予防の推進に向けて、関係団体への支援に取り組みます。

3 移住者の受入環境づくり

- ① 浦戸への移住者の受入環境の整備に向けて、国・県などの関係機関と連携を図るとともに、空き家の有効活用に努めます。 にぎわい

4 特色ある教育の充実

- ① 小中併設校である浦戸小中学校においては、島民の協力を得ながら、浦戸の恵まれた自然環境や文化、伝統を生かし、教育の推進や子どもたちの活躍の場の創出に努めます。 よろこび

5 先端技術の活用による島生活の充実

- ① 島民の生活環境の充実に向けて、企業などと連携し、先端技術を活用した買い物支援や移動支援などについて検討を進めます。 すみよさ



浦戸へ向かう市営汽船

第2節 浦戸産品(海産物・農産物)の高付加価値化や担い手育成による産業の振興

1 浦戸のブランド化促進と6次産業化支援

- ① 浦戸の海産物・農産物について、安全性や生産性のさらなる向上に努めながら、浦戸の自然や歴史、島の人々によって育まれてきた背景を合わせて広く発信するなど、関係機関と連携して「浦戸ブランド」の磨き上げを行います。 やりがい
- ② 浦戸の海産物や農産物の高付加価値化に向けて、既存団体の活動を支援しながら、さらなる商品開発の促進や販路開拓の支援により、浦戸特産物の6次産業化を推進します。 やりがい

2 浦戸産業の魅力発信と担い手の確保・育成

- ① 島の豊かな自然のもとで充実して働ける環境や、浦戸の海産物・農産物の価値を広く発信し、産業の担い手確保に努めます。 やりがい
- ② 持続可能な浦戸の産業づくりに向けて、島民と連携を深めながら、地域おこし協力隊^{※38}をはじめとした担い手の受入体制づくりに取り組みます。 やりがい
- ③ 新たな漁業従事者等の招致育成や島内外の人々の交流活動が促進できるよう、ステイ・ステーションなど拠点となる施設の環境整備と効果的な運営に努めます。



6次産業化を進めている「がんばる浦戸の母ちゃん会」の皆さん

※38 【地域おこし協力隊】都市地域から人口減少や高齢化等が進む地方に移住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を促進して、地域力の維持向上を図る取組のこと。

第3節 浦戸ならではの自然や歴史・文化を生かした交流の推進

1 個性ある地域資源をつなぎ合わせた交流活動の推進

① 浦戸の魅力である自然景観や歴史的資源の保全に努め、島民とともに各島が持つ資源の掘り起こしを行い、浦戸諸島一体での交流活動を推進します。

にぎわい

2 浦戸ならではの観光メニューの創出

① 島民や各種団体、事業者等と連携し、訪れる人々に浦戸ならではの癒しや楽しさを与えられる観光メニューを創出します。

にぎわい

② 浦戸を訪れる人々が快適に過ごせるよう、環境整備をはじめとした受入態勢づくりに努めます。

③ 浦戸の自然や産業を体験できる場として、防災集団移転跡地の有効活用を図り、交流人口の拡大に努めます。

にぎわい

3 時代のニーズに沿った受入環境づくり

① 島のよさや島の暮らしを丸ごと体験できる滞在・体験型のメニューを充実させ、個人旅行や教育旅行の受入態勢を整えます。(再掲)

にぎわい

② 浦戸の魅力である自然景観などを生かし、働きながら非日常の癒しを求められる場の構築に向けて、事業者などと連携して取り組みます。

にぎわい



浦戸での体験ツアー(牡蠣剥き体験)の様子

成果指標

NO	指標名		基準値	目標値	SDGs ローカル指標	備考
1	市営汽船乗船客数	すみよさ	15.8万人 (令和元年度)	14.6万人 (令和8年度)		
2	浦戸諸島への新規定住者数	にぎわい	-	10人 (令和8年度) ※5カ年累計		
3	浦戸ブランド(海産物・農産物)新商品開発数	やりがい	-	10品 (令和8年度) ※5カ年累計		
4	ふるさと納税返礼品のうち浦戸産品の申込件数	やりがい	410件 (令和2年度)	615件 (令和8年度)		
5	「浦戸の1次産業について興味がある」と回答した割合	やりがい	-	50% (令和8年度)	14 SDGs 魚	アンケート
6	地域おこし協力隊受入人数	やりがい	2人 (令和2年度)	11人 (令和8年度) ※5カ年累計	14 SDGs 魚	
7	交流事業による島外からの集客数	にぎわい	188人 (平成29年度～ 令和元年度の 3カ年平均)	300人 (令和8年度)		

浦戸諸島の分野では、浦戸ならではの自然や文化に抱かれた、島の人々の日々の暮らしや、島を訪れる人々がその恵みを楽しんでいる暮らしが描かれました。



船が身近にある暮らし

浦戸や松島、宮戸島などへの移動手段として、日常的に船を利用する。松島湾には多くの釣り船が浮かぶ。小型船のシェアリングが盛んになり、自分で操船する人も増えた。



浦戸に住んで漁師を目指す暮らし

漁師を志す人が浦戸に長期滞在しながら漁師の指導を受け、技術の習得と独立を目指す。その活動を支援するしくみがあり、地元漁師も後継者育成のために協力を惜しまない。



浦戸の菜の花を活かす暮らし

春の浦戸には菜の花や水仙などが咲きほこる。島のカフェでは菜の花のハチミツを使ったスイーツや菜の花の漬物を味わえる。春に島の民宿に泊まると食事は菜の花づくし。



岸壁でのんびり釣りをしながら海を眺める暮らし

天気の良い日は岸壁で釣りをする人の姿が多い。釣った魚は料理して食べる。釣れなくても、穏やかな海をのんびり眺めているだけで最高のリフレッシュになる。



浦戸で休日を過ごす暮らし

休日は浦戸の島を訪れ、ツバキの遊歩道や菜の花畑を歩き、丘の上から海を眺める。お昼は島の民宿や食堂で海苔や牡蠣やシラウオなどを使った料理を食べる。宿泊して島を堪能する人も多い。



浦戸で働きながら余暇を楽しむ暮らし

浦戸に宿泊しながらパソコンで仕事。仲間との打ち合わせや営業先との交渉もオンラインでできる。仙台や東京からワーケーションで来ている人も多い。



浦戸で白菜を育てる暮らし

浦戸の住民が浦戸産の種から育てる白菜は「浦戸白菜」として仙台白菜とは別の新たなブランドになった。市内の子どもたちが畑に通って栽培、採種を体験し、収穫した白菜は給食で味わう。



浦戸で農作物を収穫できる暮らし

島に農地を借りて好きな野菜を植え、週末には草取りや水やりに行く。収穫の楽しみを味わえるだけでなく、屋外での作業で体力がついた。丁寧に管理された松林ではマツタケも採れる。



牡蠣殻を用いた商品を生産する暮らし

牡蠣殻を活用して建築資材や土壌改良剤を作る事業が地場産業として発展し、雇用を生んだ。市内の農地では牡蠣殻の土壌改良剤が普及し、おいしい野菜が採れるようになった。

